

## 東郷湖・未来創造会議 ワークショップ研修会 会議録

日 時 平成23年8月4日(木) 午後1時30分～6時  
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

### 1. 参加者

宮脇 正道 (町長)、上井 明彦 (総務課係長)、宮川 紳 (企画課係長)、西原 秀昭 (町民課副主幹)、中村 健太郎 (松崎幼稚園教諭)、足立 哲治 (健康推進課主事)、三ツ井 和彦 (産業振興課係長)、森 輝信 (建設水道課課長補佐)、宮脇 一善 (長寿福祉課係長)、田中 裕行 (教育総務課主事)、杉村 和祐 (生涯学習・人権推進課課長補佐)、中本 賢二 (企画課長)、山田 志伸 (企画課課長補佐)、林 紀明 (企画課係長)、山下 和成 (県土整備局計画調査課土木技師)、山口 博 (県民局県民活動課副主幹)、林原 美穂子 (県民局企画総務課主事)、吉井 美和子 (県民局企画総務課参事)

### 2. 福井 昌平氏 (総合ファシリテーター) あいさつ 【会議に関する部分】

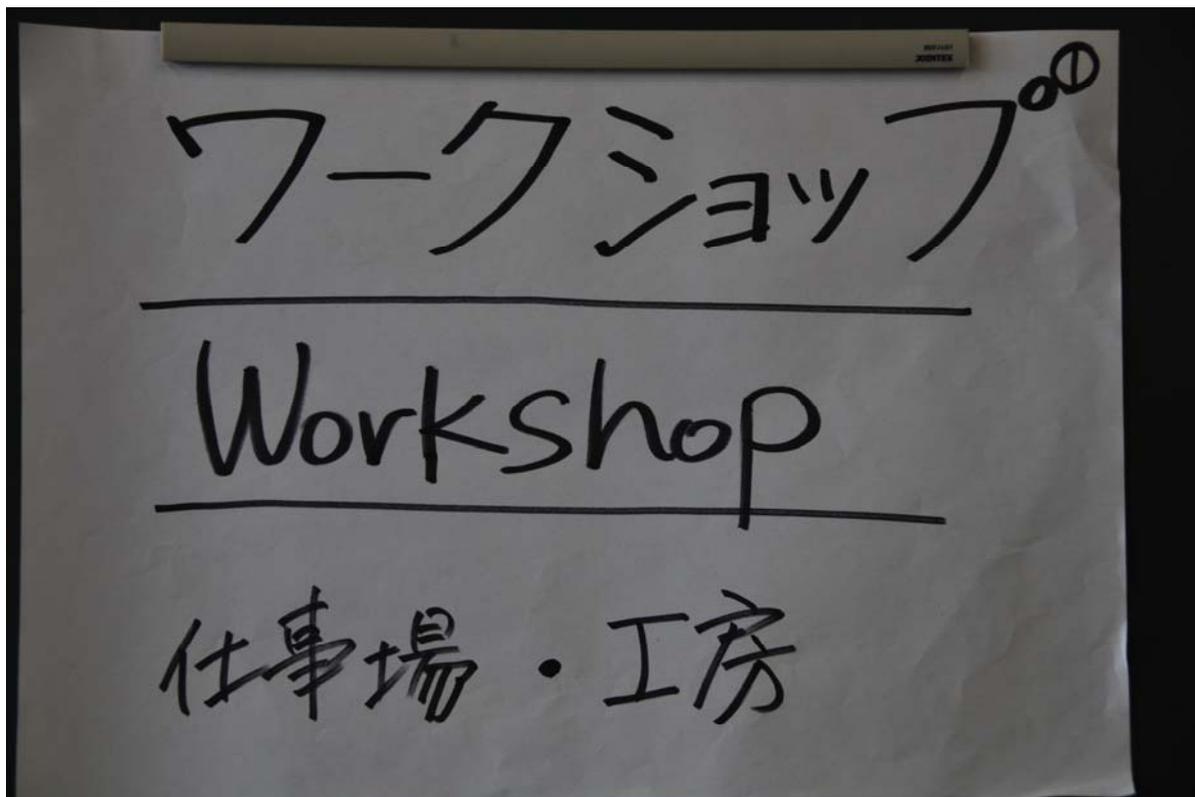
この度、町長から東郷湖を一つのキーワードにした、舞台にした湯梨浜町の活性化に向けた町民参加の会議のお話がありましたので、皆さんが主役になって、考える主役ですよ。或いは行動する主役になる何か新しい手法をですね、皆さんに伝授したいなと思っています。私が今日お話するような作業というのはですね、実は国鉄が分割民営化されてJRになるプロセスの中で、私も国鉄の皆さんと一緒に分割民営化を進めてきました。或いはNTT、電電公社ですね、この民営化も一緒にやってきました。それから、全県公園化構想を鳥取県の中でもやってきました。愛知万博や平城遷都1300年祭もみんな主催する地方自治体の中で、皆さんのような若い中堅どころの職員の皆さんのやる気といいますか、これをやらなくてどうするんだというようなところの研修を随分たくさんやってきましたので、そういうものを今日皆さんに知っていただくと、おそらく今後皆さんも自分の職場の中で、仕事の中で、一つ何か見えるものが、得られるものがあるんじゃないかなということで、お手伝いをすることにいたしましたのでどうぞよろしくお願ひします。言いたいことはたくさんあるんですが、また追々とお話しますのでよろしくお願ひします。

### 3. ワークショップ研修会

(福井総合ファシリテーター)

それでは、町長からお話をさせていただく前に、私の方からお話をさせていただきたいと思っています。今回やるやり方というのは、ワークショップというやり方なんです。今、私がしゃべって皆さんが聞いているという形なんですけれども、そうではなくてワークショップですから、どちらかと言うと加治屋さんがやったり、町工場の人たちがやっているような、そういう座組みを組んで議論をしながらやっていくというやり方なんです。ワークショップ

というのをやったことがある人？



(委員)

◆人権研修

◆職員研修 (政策形成)

(福井総合ファシリテーター)

ワークショップ聞いたことない人いる？聞いたけど受けたことない人いる？

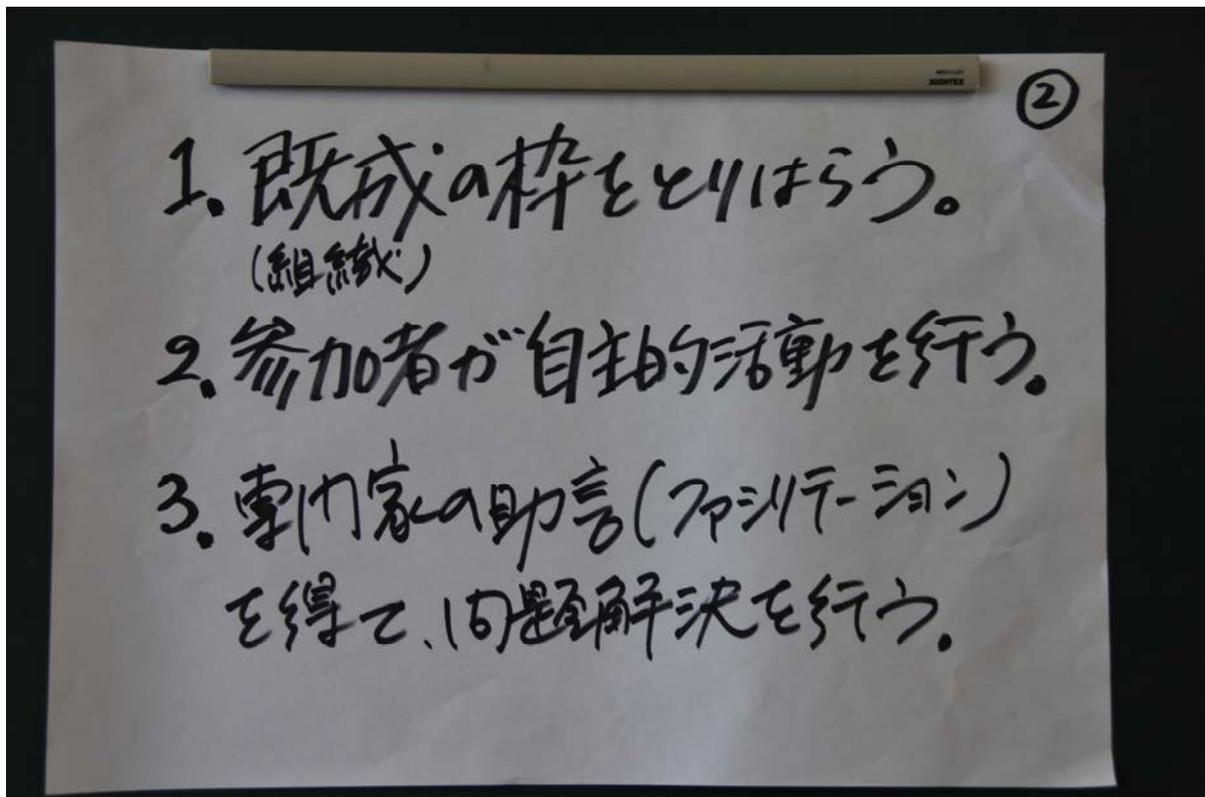
(委員)

◆聞いたことはある。

(福井総合ファシリテーター)

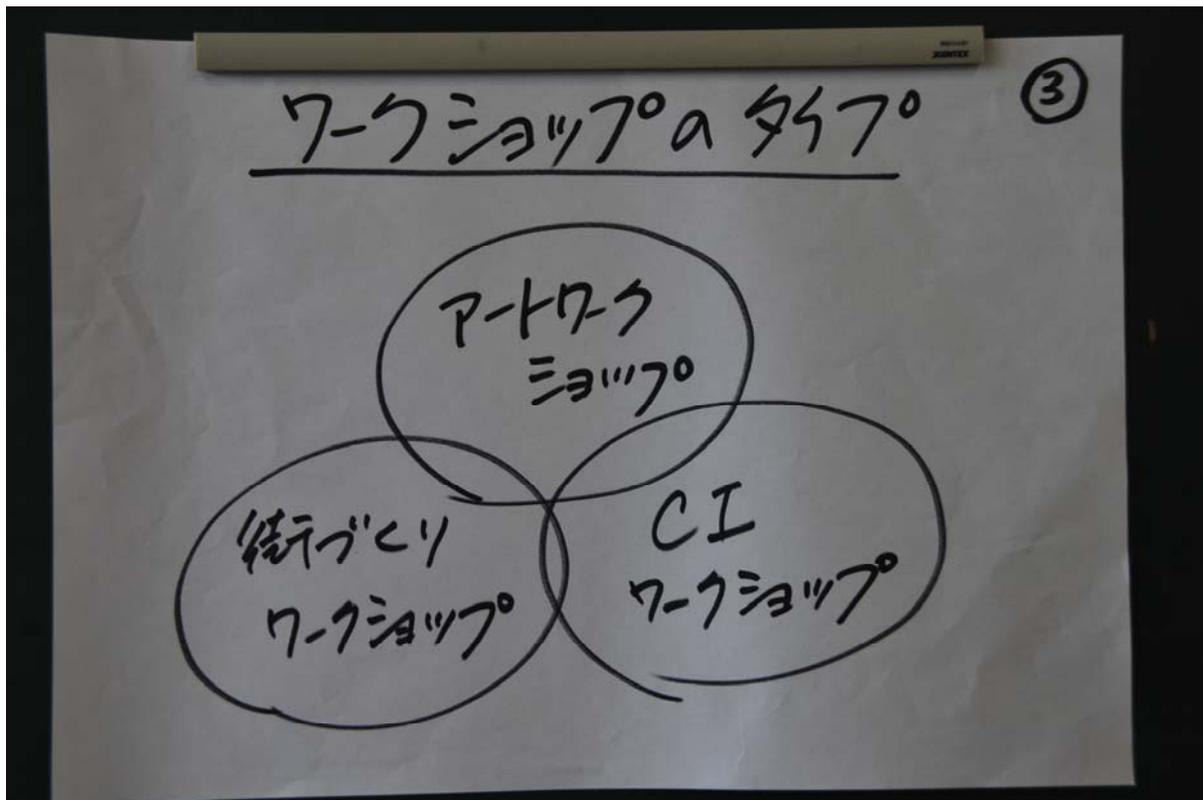
大学で最近始めたりしているんだけど、大学で受けたという経験がある人？要するに役場に入ってから受けたということですね……。ワークショップの特徴というのは、基本的には既成の枠を取り払うということ、例えば年齢だとか、性別だとか、そういうものを関係なく、もっと言ってしまえば組織の枠を取り払うということ。ですから、先程チームを分けますということをお話したんですが、あらかじめ私はあそこだなというふうに決まっている人がいるというんですね。社会資本整備チームに入ろうとか、観光・物産チームに行こうとか、或いはイベント形成みたいなものをやろうとか、ということで振り分けられると思いますが、今日は、実は全く関係ない形で、これから私が言うような方法でチームをつくりまします。ですから、そこのところは気にしないでください。基本的には既成の枠を取り払う、これが非常に重要です。それから二つ目は、参加者が自主的活動を行うということ。要するに

自分の考えを大事にすること。ただ言いつばなしではなくて、ちゃんとそれを記述する、表現する、できるだけ簡潔に表現する、こういう形をとって座組みを組んだ人たちの中でコミュニケーションが成立する、或いは座の外側の人たちに対してプレゼンテーションをする、そういう参加者が自主的活動を行うことが重要です。それから三つ目は専門家の助言、ファシリテーションですね。もちろん色々な専門家がいていい訳ですけども、今日は私がコミュニケーションデザインというか、行政法を皆さんより知っている訳ではないんですが、色々年を重ねて、色々な経験をしているので、地域活性化であるとか、プランニングだとか、或いはプロジェクトを推進していくことについては先輩だと思いますので、私がファシリテーターを今日やりますけれども、専門家の助言を得て問題解決を行う、要するに必ず問題解決をする。「こういうことを考えたんだけどな」で終わってしまわない。それを実現するためには何か壁がある、壁があるんだったらその壁を取り払って、それを実現するためにはどうするのかということまで考えないと全く意味がないということになりますから、専門家の助言を得て問題解決を行う、こういう特徴を持っているんです。



#### ワークショップの特徴

このワークショップのやり方というのはですね、どういうところでやっているかということ、ワークショップのタイプは今のところ、色々なテレビやマスコミなどでワークショップ、ワークショップと言っていますけれども、しっかりしたワークショップの手法というのがつくられてきている部分で言うと三つぐらいあるんですね。



一つは、アートワークショップ。文字どおり芸術家、アーティスト、こういう人たちのワークショップというものがあります。これに参加したりとか、見たりしたことがある人います？・・・なかなかない。自治体ですごく盛んなのは金沢とか、横浜、創造都市運動をやっているようなところは、このアートワークショップがすごく盛んですよ。それから、子どもたちの創造性を高めるようなもの、これも盛んにアートワークショップみたいなものが多いですね。絵を描くとか、ダンスをするとか、これは結構、現場でしっかりと進めていくという意味で言うと先程言った工房型、役場も仕事場の一つですけれども、役所というのですね、どちらかというとなら工房から最も遠い場所だと思っうんですね。法律を執行しなくては行けないとか、守らなければいけないとか、どちらかというとなら分節化されていて担当、担当、担当というようなね。部分化されていくという傾向が強いですよ。そういう意味でいくと、工房というようなところとはかなり違っうんですねけれども、アートワークショップというのは、まさに文節ではなくてそれを総合化して表現するような、そういう芸術というのはいくこのワークショップが非常に合っているんです。それから、1970年代の後半にアメリカから日本に持ち込まれてきたもので、街づくりワークショップ、CIワークショップというのがあります。街づくりワークショップというの、最初は世田谷で始めたやり方なんですけれども、要するにまちの中に何か問題がある、変なところに焼却場が建っているのは反対だと市民が反対運動を起こしている、そういう市民との対話の中で、一体まちのごみをどうするんだと、焼却場はどこにあればいいんだというようなことを含めて起こってきたものが街づくりワークショップ。かなり東京が自治体の中で盛んに行われてきたものですね。川崎なん

か盛んにやりましたね。そういうことで、1970年代の後半からの街づくりワークショップというのが広がっています。今、平塚とか、小田原とか、全国の市町村で街づくりワークショップという手法が取り入れられて、商店主や市民、或いは色々な行政の関係者が一堂になって、まちの活性化をどうするんだということをやっていますね。もう一つは、CIワークショップ。これは、コーポレートアイデンティティ運動と言われていていますね。企業のアイデンティティ、アイデンティティというのは、我々はアイデンティティのことを「我々は何者か、誰のために何を為すのか、どう思われたいか」ということを定義するというふうに位置付けておりますけれども、こういう企業の、言わば未来創造性みたいなものをですね、それまでは社長がいてこうやろうと言うと皆がついてくるんですね。そういうことでよかったですけれども、世の中が非常に複雑化していく中で、顧客も単純ではない。世の中も単純ではない。そういう複雑な構造の中で、自分たちのアイデンティティというものを社員のボトムアップでつくっていく、新しい企業文化や企業の行動規範をつくっていく、ビジョンをつくっていく、商品をつくっていく、そういう社員参加のワークショップなんですね。この三つのワークショップが社会化してきたというか、だんだんワガコトになってきて、いよいよ湯梨浜町にもやってきたということだと思えますね。ですから、自分が主体になって、そして、アイデアはあるとか、アイデアはあるけど課長が認めてくれないと言って給料をもらっているのが地方自治体の職員ですけれども、そうではなくて、それを具体的に、自分は町民のために、まちのために、ここの壁を、こうしたいと思ったものをどうやって実現するんだということをやはり考える、そういうための手法としてワークショップというのが見直されてきているということでもあります。そういうことで、明日は40数人でワークショップをやる訳ですから、すごく大変ですので、実は今日、一日前に皆さんに少し体験してもらって、若干そのことによって熱が冷めてしまう部分もあるかも知れませんが、新鮮味が薄くなるかも知れませんが、とにかく今日は受けていただくということでもあります。チームを編成したいんですけれども、その前に東郷湖を中心にした活性化の方法について、日頃皆さんは町長の話を知っていると思いますけれども、最初に町長の話を知ってください。それで、町長の話を知った後、そこにA4の紙がありますから、町長の話を知って私はこう思う、ここに感動した、とにかく自分が素直に思ったことを、こんなことはできないよとか、何でもいいんですが、町長のプレゼンを聞いて自分はどう思ったかということを書いていただきます。ビシッと論文を書く必要はありません。思ったことをとにかく書いていただきたいというお願いまでを言って、まず町長の方から東郷湖・未来創造会議への自分の夢というか、考え方をプレゼンテーションしていただきます。それでは、よろしくお願いします。

(宮脇町長)

役場の職員の皆さんには、先だって発足会をした時に一応話しておりますので、同じ内容も多いかと思いますが、東郷湖活性化プロジェクトを湯梨浜町で取り組んでおります。東郷池の環境をベースにして、東郷池の環境を良くすることを基本に置きながら、水がきれいなら周囲から産する農産物も安全だと、観光面でも見た目も中身もきれいですよという価値の創出もできるということで、東郷湖活性化プロジェクトを立ち上げてやっています。そもそ

も立ち上げるきっかけになったのは、合併して東郷池が一つになったこと、旧東郷町と羽合町に分かれていた池が、湯梨浜町の単独の池になったということであります。それから、平成18年度にあったシジミの残留農薬の問題、東郷池に残留農薬が出て、シジミの操業停止に追い込まれたということです。魚介類には米の10倍厳しい基準が適用されていて、魚介類に農薬が溜まるということが想定されてなくて、そのような厳しい基準が適用されていた訳なんです。米の10倍シジミを食べる人間がいるかというようなことで、厚生省に適正基準を設けていただいた訳ですが、そのシジミのことで、町民の東郷池の環境というものに対する関心の高まりが見られたということです。それと、平成19年度に県の方が東郷池の水質管理計画を定められたと。この中で住民なり、事業者なり、行政なり、それぞれ取り組むべき内容というのが決められたと。そのような三つのことを受けて、ここはいいチャンスではないかと、東郷池を中心に東郷池周辺の活性化を図ることを考えてみよう。先程言った環境をベースにという部分では、メダカの会ですとか、或いは学校関係ですとか、そういったところが色々な取り組みをしてくれる、幸いにも町内には衛生環境研究所もあり、栽培漁業試験場もあるというようなことで、それらとの連携した施策も講じることができる、勉強会もあるということが一つ。それから、それに伴って町内産の農産物、産業も活発にしようということでエコファーマーの取り組みが始まって、1000を超える農家がエコファーマーに参加したということで、これは県内の町村の中でも数の多い町になったということなんです。ただ、実際に生産された米にどこまでもっていけるかということになるとその部分では成果という面は見られていないという現状があります。そういうことに加えて、町の方は町内の周遊ルートといいますか、伯耆一ノ宮に上がるところに駐車場がないから整備したりとか、或いは今滝や不動滝に行く道が悪いということで道を改良したり、多少拡幅などもしながら交通の便を良くしたりということが現状でございます。その他にもイベント系で、トライアスロン大会などを町が開催することに踏み切ったのは、やはりこの東郷池というものを、今、東郷湖活性化プロジェクトを実施していると。そうすればその中を人が泳ぐということはそれなりに価値のあることだというような観点から、トライアスロンを実施すると。湯梨浜町はたくさんイベントをやっていて、これ以上という気持ちも正直当時はしたんですが、そういう気持ちで踏み切ったということがあります。そういう中でやってきていたんですが、実は最近になって色々な要素が見られだしたということです。一つは、NPOの団体が商工会と連携して、東郷湖周に案内板が設置された。これは、インバウンドの関係で県の補助金を使ってやったんですが、ここはどこから何kmですよという電話で聞ける案内板の設置が4箇所ほど行われた。これの中には、燕趙園からここは何kmということと同時に、近くにある伯耆一ノ宮の説明があるようにして、観光とウォーキングとそういったものに資する看板の設置があったということ、それから、NPO法人などによる湖周の活用ということがございます。サンイン未来ウォークでは、この湯梨浜地域が歩くコースとして評価されたということがありますし、ノルディックウォーク大会の方も町も多少支援をしながら始めたということがあります。そういったことが一つは具体的な動きとしてあるということ、それから、これらのことが深まったことによって、例えばこの間の日曜日でも藤津

のところを何人も歩いて上がって来ておられる。今日は何の大会もないのにと言ったら、地域のグループで歩きに來たんですと言っておられました。自転車の競技用の帽子を被った人たちも多く回っておられるというようなことで、どうも湖周がより魅力的なコースとして認知されだしているのではないかとというようなことも感じだしている訳であります。そのようなことを感じているんですが、元々合併してから後に、私が町長になってから、天女の像をつくったらどうだと、寄付してもいいけどもというのを龍鳳閣のお風呂に入っていて、倉吉の湯梨浜町出身者の人から聞いたり、或いは東郷湖周に桜の木を植えたらどうですか、見事なものになりますよとか、そういう意見を聞いたことがあって、東郷湖活性化プロジェクトではトータルに進行管理や色々な団体に加わってやっているんですが、本当に東郷湖周をどうしようかと、ここを一段とグレードアップしたものにするにはどのようなことが考えられるだろうかということをおもんばかって、一つ天女の活用が頭に浮かんだ訳です。今日、町長の夢ということをつくっていますが、これは切り口の一つとしてという意味で見てもらえばもちろんいいんであって、これから未来創造会議の中で皆さんが提案していただければいいと思っております。



東郷湖・未来創造会議 ~町長の夢~ 発表

**【要旨】(別添プレゼン資料参照)**

◆**キャッチフレーズ：天女によるまちづくり**

◆**キャッチコピー**

- ◇「天女の住むまち 湯梨浜町」
- ◇「天女に会えるまち ゆりはま」
- ◇「天女と7福神人に会えるまち 湯梨浜」
- ◇「天女と大王の住むまち 湯梨浜町」

◆**活用すべき素材**

- ◇羽衣石の天女伝説・・・羽衣石、羽衣の池、水乞い行事
- ◇6つの足湯・・・・・・・・・・はわい温泉、東郷温泉
- ◇東郷荘絵図
- ◇燕趙園・・・・・・・・・・国内最大級の中国庭園、7福神
- ◇伯耆一ノ宮・・・・・・・・銅経筒(国宝)、下照姫命(安産の神様)
- ◇九品山・・・・・・・・・・中将姫(敬虔な姫)
- ◇長瀬高浜遺跡・・・・・・・・埴輪(国の重要文化財)
- ◇尾崎氏庭園・・・・・・・・国の名勝
- ◇さくら工芸品工房・・・・・・・・陶芸、染織、サンドブラスト、梅花書道
- ◇東郷湖周周回コース・・・・・・・・美しい日本の歩きたくなるみち500選
- ◇3つの全国百選・・・・・・・・①石脇快水浴場(快水浴場百選(環境省))  
②宇野地蔵ダキ(平成の名水百選(環境省))  
③別所・国信地区(里山百選(朝日新聞))
- ◇3つの全国大会・・・・・・・・①グラウンド・ゴルフ発祥地大会  
②ハワイアンフェスティバルハワイ in ゆりはま  
③ベテラン卓球東郷大会
- ◇世界マンガサミット・・・・・・・・平成24年11月開催
- ◇中華コスプレ・・・・・・・・歴史上の人物、アニメ

◆**具体的な取り組み**

- ◇東郷湖周遊(周回)コースの整備
- ◇土産品の開発
- ◇全国天女サミットの開催
- ◇ゆるキャラの製作
- ◇天女コスプレの開催

実際のやり方はやっぱり、住民の皆さんと協働で進めていかななくてはいけないと思っています。皆さんはその際の指導者であったり、あるところでは引っぱったり、あるところでは正しい認識を持ってもらうという部分もあるかもしれません。色々な役割を果たしていただかなければいけないというふうにも思っております。県の方も忙しい仕事をたくさん持って

おられますが、所長や局長に丁寧にお願ひしますので何卒よろしくお願ひいたします。湯梨浜の未来を皆でつくっていったらと思つている次第です。以上です。

(福井総合ファシリテーター)

今、町長の夢を聞いていただきましたので、自分がこう思つたということを書き紙に書いてもらいたい。こういう対話とか、講師がいて生徒がいるという構図はワークショップではないので、今までは前座ということになりますので、ちょっと椅子をそれぞれのところに戻しながら、町長の話を聞いて自分はこう思ふということを書いてみてください。発表してもらつるので、フレーズで書いていただけませんか。



書いていただいたものをこれから発表していただきますけれども、短めに発表していただく。私は、本当は一人が1分間というふうに思つたんですが、今見てると相当書いているなと思つて、やっぱりワークショップにまだ慣れていないと感ずるんですね。

今、皆さんがいる場所は最終的な席ではありませんので、仮の場所です。

一人ずつ立つて、自分がこう思つたということを発表してもらおうと思つたんですね。時間は、先程言ったように1分以内と思つたんですが、1分では辛いだろうと思つたので、できるだけ短めで、2分を超えた場合にはストップと言いますから、町長の夢を聞いて自分はこう思つたということを発表していただきます。



### 「町長の夢」発表を受けた感想を全員で書いて自己紹介

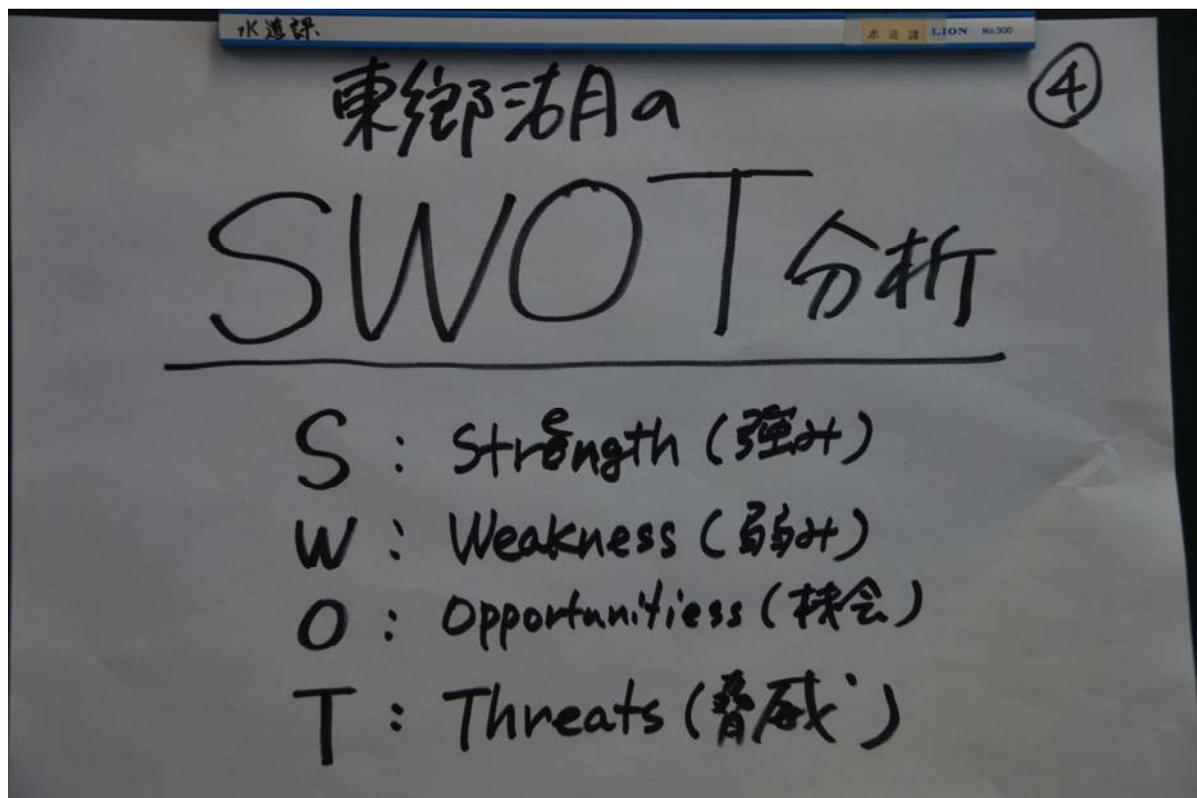
皆さんにこう思ったよということを発表していただいて、そして自己紹介、もちろん皆さんは仲間ですから、日常的にあっている部分もあると思いますけれども、普通は名前や所属を言うだけなんですけれども、一応先程の町長のプレゼンを聞いて私はこう思ったよと言うと、自分と同じ考え方だなとか、割と近いなとか、そういうことを少し感じたんじゃないかなと思うんですね。さて、ここから先なんですけれども、チーム編成したいんです。今、皆さんに発表していただいたものの中で私が聞いていて、一つは天女、確かに天女については、肯定も否定も含めて天女というのはあるかなと思います。あまり天女は関係なく、やっぱり東郷湖の持っている周遊性というか、桜などを含めてですね、何かそういうものを活かしながら地域の整備をしていくという、大きく二つの発表があったんじゃないかなという気がするんですね。もちろん、それぞれのニュアンスというのがあると思うんですが、天女に関心を持ったチームと東郷湖の周回みたいなのを軸にした部分について関心を持ったというチームに分かれていただけませんか。

### 全員の発表を聞いて、「テーマ性」「関心性」を共有する仲間とチーム編成

ワークショップを受けていただくのに非常に重要なのは、先程自分の感じたことを書きましようと言った時に、文書を書き始めた人がいましたね。これは、よくあるパターンだと思うんですね。やはり、感じたことをA4ぐらいの紙に書くというのは、実はたいへんなスキルなんです。いいとか、悪いとか言っているのではないですよ。つまり、やったことのない人はなかなか難しいんですよ。なるべく簡潔に自分が思ったことを表現できるということが非常に重要になります。できるだけこれからする作業の中では、表現は「〇〇を〇〇する」という非常に簡潔な表現に心がけていくと最初はプレッシャーなんですけれども、だんだん

メモを取るのも早くなるし、相手の話したことをまとめることにもなるし、そのあたりを心がけていただくとありがたいと思います。

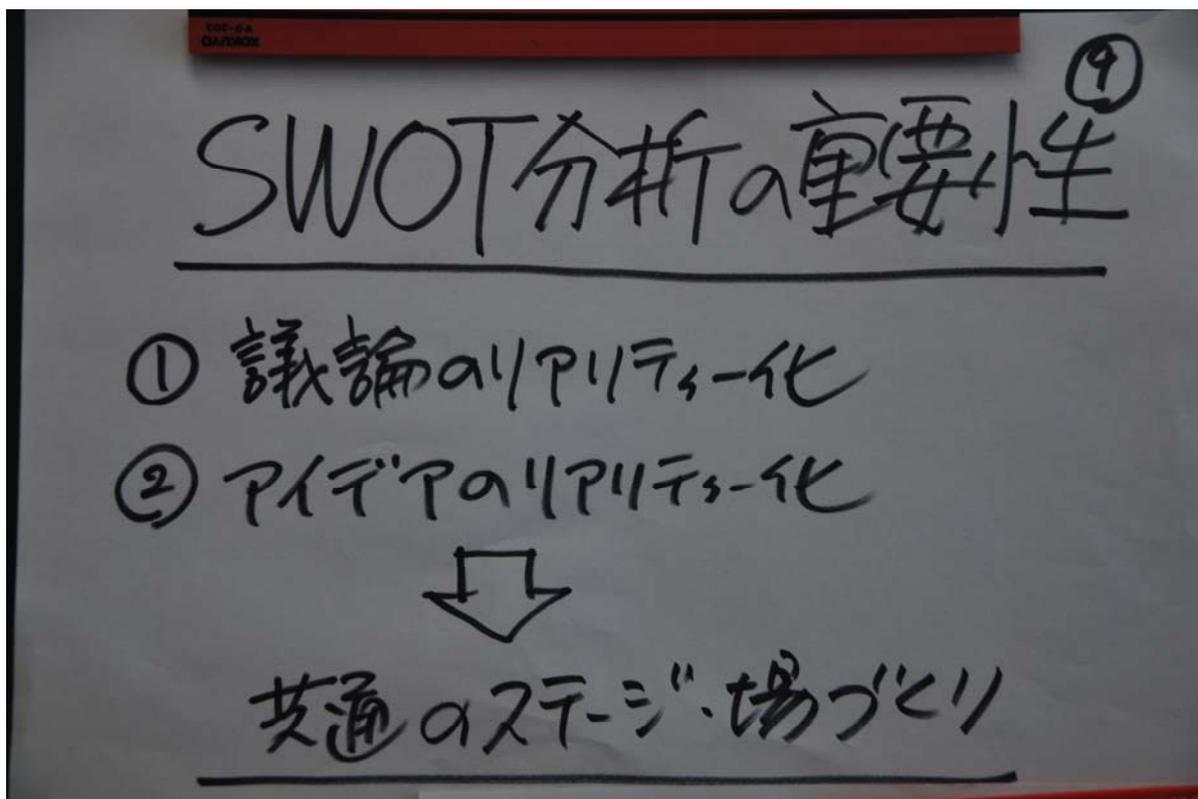
それでは、これから何をやっていただくかというところ、東郷湖のSWOT（スウオット）分析というのを皆さんにやっていただきます。このSWOT分析というのは、マーケティングの手法から生まれたものなんですね。



**福井総合ファシリテーターがSWOT分析を解説**

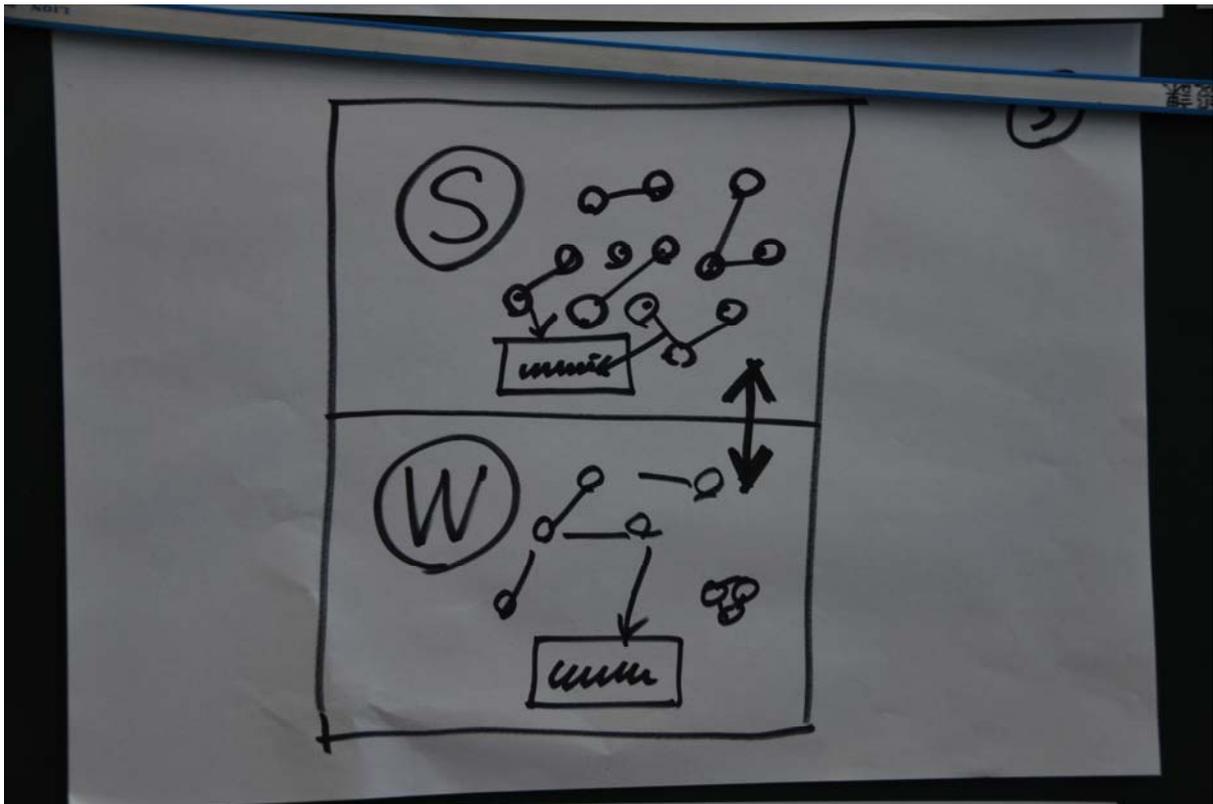
「S」は Strength=強み、「W」は Weakness=弱み、「O」は Opportunities=一般的には機会、ある物事をプラスにしていく要因、「T」は Threats=脅威、ある物事をマイナスに、ネガティブにしてしまう要因と考えていただいていいですね。このSWOT分析というのは、東郷湖というものをマーケティングの対象として考えた時に、どういうふうに評価をするのか、考えられるのかということなんですね。ですから、皆さんにこの議論をしていただきたいなと思います。なぜそういうことをやるかというところ、SWOT分析の重要性というのは、今、何となくアイデアはいいよとか、誰々が言ったことが好きとか嫌いとかというように皆がすぐ反応してしまうんですが、議論のリアリティ、議論がどれだけのリアリティがあるか、その話にどれだけのリアリティがあるのか、それから、自分が出したアイデアがどれだけのリアリティがあるのか、そういうものの共通認識のためのベースをつくれるということなんですね。ですから、本当にやろうと思うと相当なデータの訴求をしていく、具体的なデータにも遡ってみるということも必要になるんですけども、今日はそこまでやるとた

いへんなのでやりません。



福井総合ファシリテーターがSWOT分析の重要性を解説

そこでどういうやり方をするかという、まず、「S」＝強みと「W」＝弱みの評価をしていただく。東郷湖のことがあまりよく分からないという人には、先程町長が説明されましたけれども、東郷湖活性化プロジェクトのパンフレットがあります。結構色々なことをやっているんですよ。湖をきれいにすることから始まって、観光や色々な周辺環境の整備等を含めて、湯梨浜町は東郷湖活性化プロジェクトでやっているんですね。詳しいデータは、もっと遡っていけば衛生環境研究所などにあると思うんですね。誰々がやっているとか、誰々さんの話を聞こうとか、実践している人のことを聞こうとか、そういうところまでいくんですが、自分たちが日頃行政マンとして係わる中で、或いは子育てや家族と生活する中で、東郷湖の強み、弱みというものを皆さんに議論していただきます。議論していただいて、強みの要因、一人ひとり色々な意見があると思うんですね。強みの要因を整理してみると、最終的に自分たちのチームの中では東郷湖の強みというのはこういうことなんじゃないか、それから弱み、ここに弱さがあるんじゃないか、こういうことを分析していただきたいと思います。もちろん、自分がこう思うということをポストイットに書いて、大きな模造紙がありますからそこに出し合って、強み、弱み分析をしていただきます。

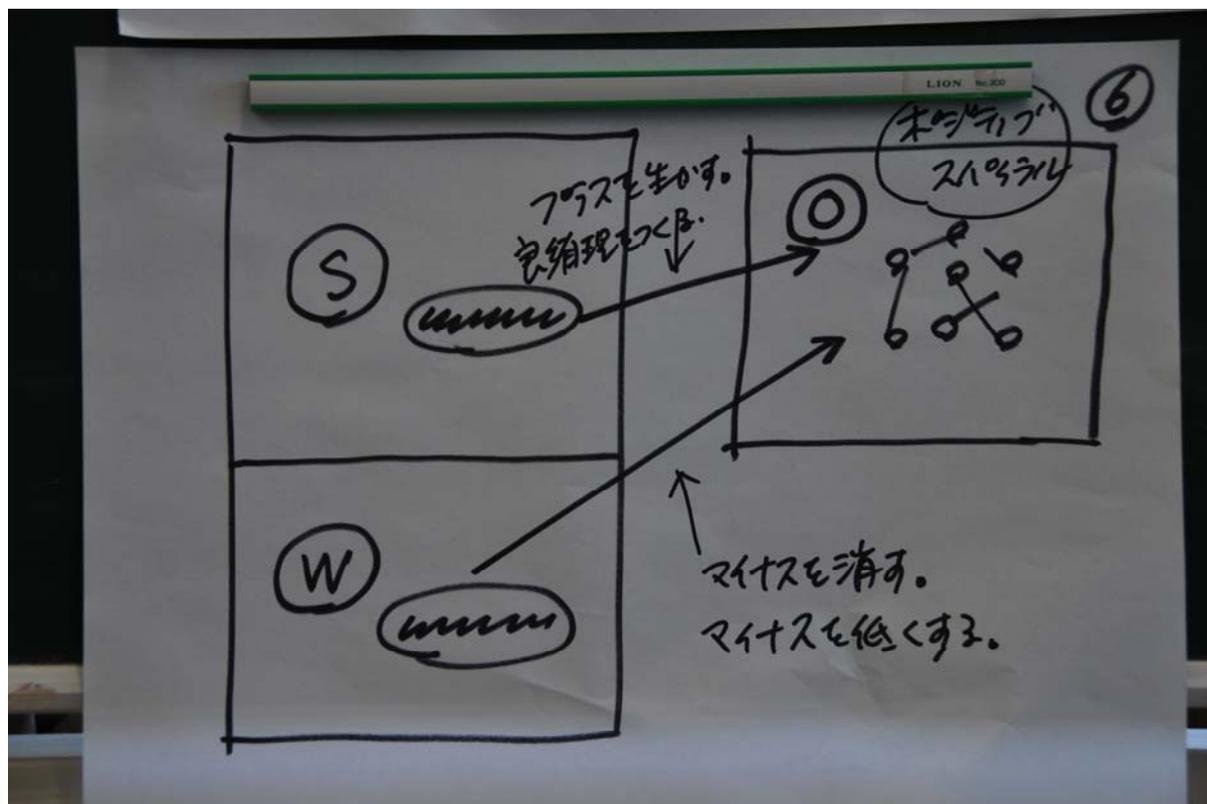


東郷湖の「強み」と「弱み」を分析

その次に、それぞれのチームで発表していただきます。時間は、約40分後ぐらいです。

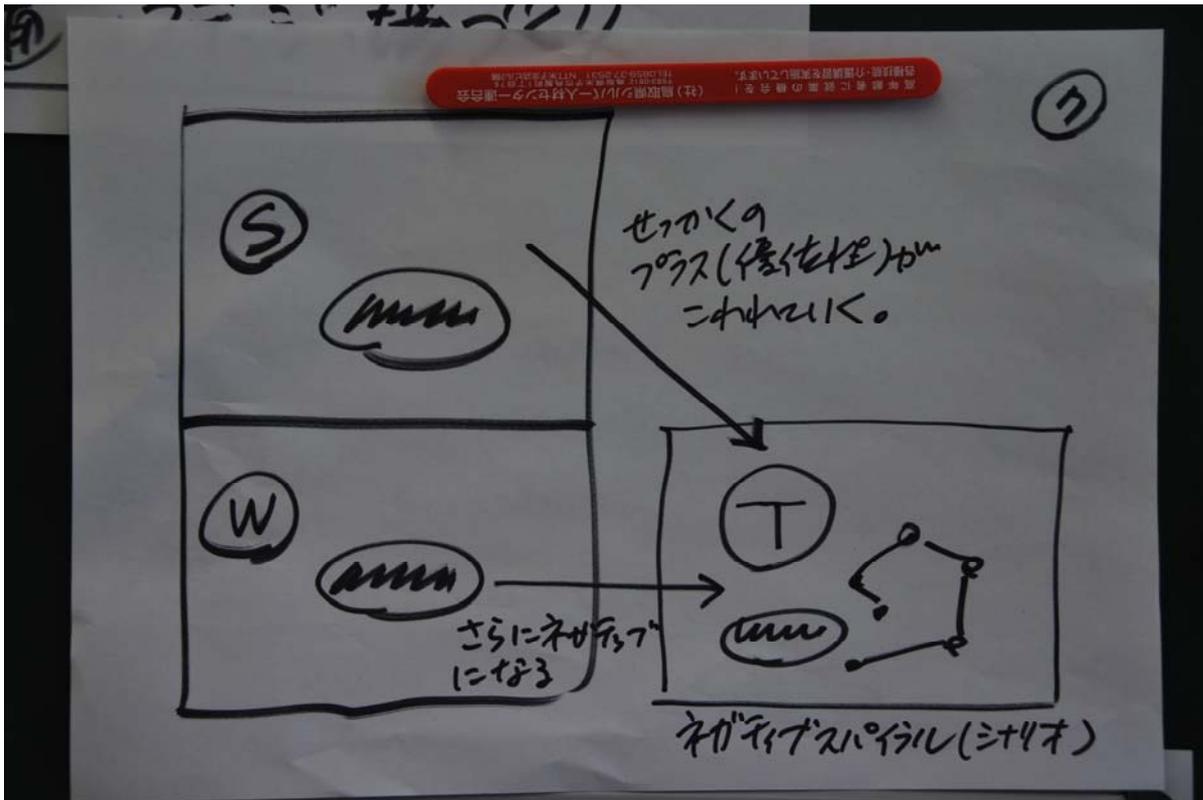


その後、今度はこの分析した強みと弱みをプラスにしていく要因、つまり、強みはさらにプラスにさせていく要因が加わってくるということですね。いい方向に回っていきますよね。これをマーケティングではポジティブ・スパイラルと言います。いい方向へ、いい方向へ回っていく。マイナスをプラスにしていく要因が加わることによって、だんだんマイナスが消えていくというようにプラスの要因へと向かっていく、こういうことが起きる訳です。

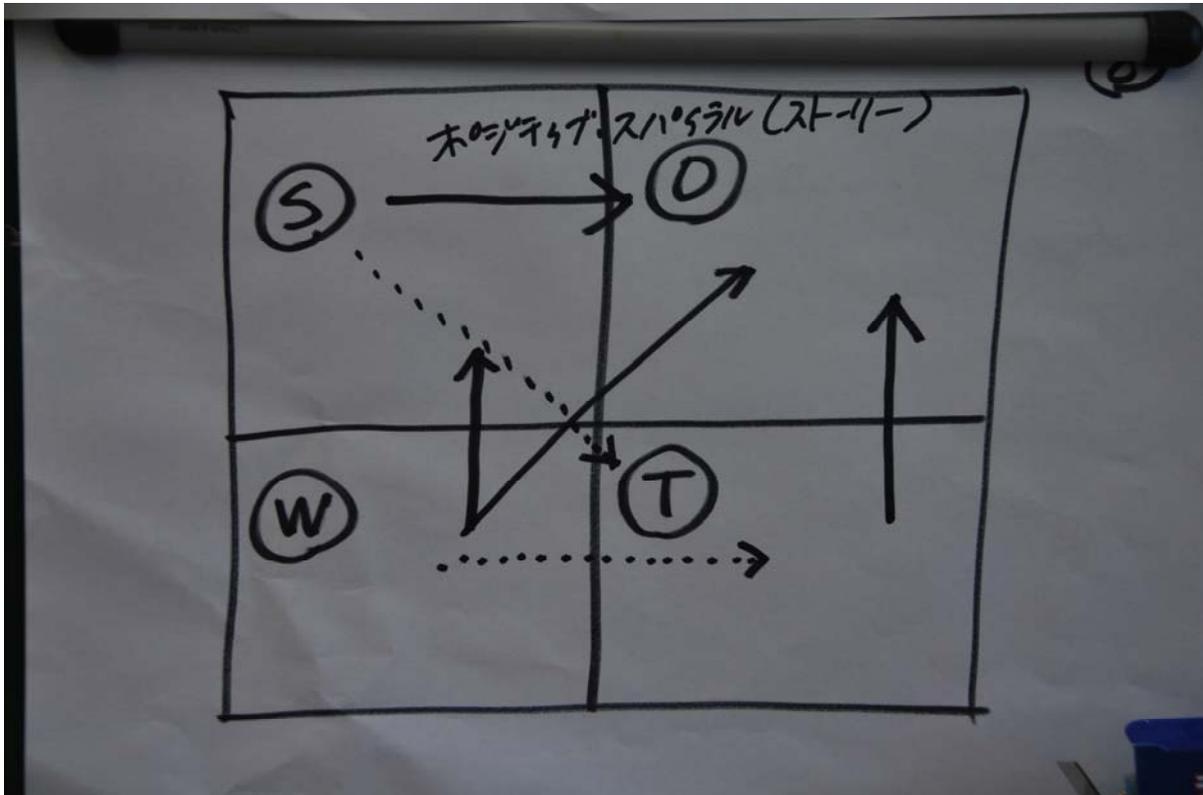


#### 強みを活かし、弱みを克服するポジティブ・スパイラルを分析

それからもう一つ言うと、今度はネガティブ・スパイラルが起きる可能性がありますね。マイナスになっていく要因みたいなものがあるとせっかくの強みもどんどん駄目になってしまう。そういうことを含めて、次は強み、弱みみたいなものを含めながら、「O」=機会、ある物事をプラスにしていく要因、「T」=脅威を、マイナスを避けながら東郷湖の強みをさらに強めていく、或いはより強めていく、そういう競争優位性を高めていくための考え方、行動について、今日は皆さんに考えていただく。とった点数が100点とか、90点とか、50点とかという点数はつきません。それぞれのチームが考えたことを最後に発表し合って、さらに皆で補い合って、今日集まった20人ぐらいのメンバーで東郷湖の強みと弱み、そしてそれをポジティブ・スパイラルにしていくための考え方や仕組み、こういうことについて訓練をやってみようという思いであります。



ネガティブ・スパイラルを分析



ネガティブ・スパイラルを克服し、ポジティブ・スパイラルのシナリオ化を促進

個々のテーブルで東郷湖の強み、弱みについて、まず議論をしてください。45分後に発表を始めますので、皆さんで東郷湖の強み、弱みを分析してみてください。  
(強みの札を出し合う、弱みの札を出し合うなど、方法は問わない。)  
誰を発表者にするか、話し合いで決めてください。



話し合いの様子

準備ができたようであれば、これからチームごとに発表していただきます。それぞれのチームが前に出て発表してください。黒板に貼って、発表していただくことになります。発表時間は、どんなに長くても10分以内をお願いします。



チームで議論した東郷湖の強み・弱みを発表

## 【主な意見】

### <東郷湖の強み>

- ・存在そのもの。
- ・温泉（はわい温泉、東郷温泉）がある。湖の周りに旅館が隣接している。
- ・湖の中に源泉があるのは珍しい。
- ・特産であるシジミ。（粒が大きい）
- ・自然が豊か。（未開発）
- ・魚釣りができる。
- ・景色がきれい。（朝日、夕日、夜景、四季折々の情緒）
- ・施設がある。（燕趙園、東郷湖羽合臨海公園など）
- ・歴史的文化資産が豊富。（ストーリー化）
- ・山陰道が近く、アクセスが良い。
- ・歩いて回るのにちょうどいい広さである。（高低差がありウォーキングやジョギングに適している。）
- ・色々なイベントが多い。（中華コスプレ、ハワイアンフェスティバル）
- ・カヌーとの結びつきが強い。
- ・韓国ドラマの撮影地。
- ・環境活動が盛んである。
- ・地域のブランドである二十世紀梨。
- ・海に近い。（湖、川とのパイプ） など

### <東郷湖の弱み>

- ・イメージが暗い。
- ・水が汚い。泳いでみようと思わない。
- ・漁業権による様々な制約がある。  
⇒シジミが地元還元されない。レジャーで活用できない。
- ・全国的な知名度がない。
- ・東郷湖を使ったアクティビティがない。
- ・家族、子ども連れで遊ぶ場がない。
- ・人出が少なく、さびしい。
- ・イベントが一過性で、地域に根付いていない。
- ・交通の便が悪い。アクセスが悪い。車のない人には移動がづらい。
- ・駐車場が少ない。
- ・整備されていて面白みがない。
- ・郷土料理がない。
- ・ここでなければ買えない、手に入らないという土産物がない。物を買う店が少ない。
- ・水際に自然が少ない。

- ・どんな魚がいるか知られていない。魚種が減ってきている。
- ・街灯が少ない。ネオン街がない。
- ・泊地域の接点が少ない。(意識がない。)
- ・白鳥は外来種であり、大事にしていくべきなのか疑問。 など

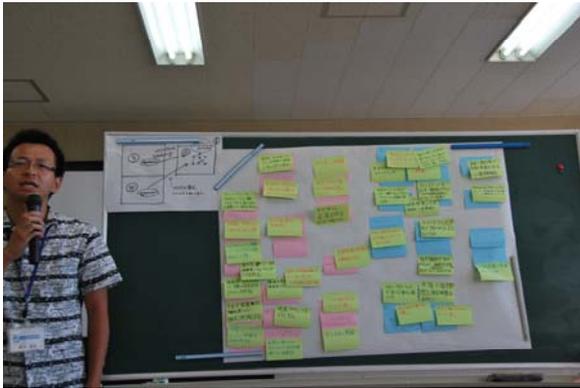
(福井総合ファシリテーター)

まず、東郷湖の強み、弱みの分析をしていただきました。どうしても、強み、弱みということになると、モノとか、コトとか、という議論になってしまうという部分ももちろんあると思うんですね。皆さんが先程からおっしゃっていた部分も、私も聞きながら思ったんですが、景観がいい、それから、東郷湖の周辺は松尾大社の荘園だったんですよね。その時の地図が全部残っていて、国信とか、別所とか、平安末期の里山の景観が残るということですよ。湖そのものは、実は縄文時代の縄文海進(じょうもんかいしん)という大事件があって、つまり水位が上がって、温暖化現象が起きた時に削られてつくられた湖で、それが今度干上がってきて残っているという意味でいくと、要するに縄文時代の遺跡の湖なんですよ。そういう意味では、全国にもっとたくさんあったんですけども、埋められたり、地震で埋まったり、日本の中でこういう潟湖(せきこ)がどんどんなくなっている。淀江は、昔、東郷湖と同じような大きい湖があったらしいんですけども、大山が噴火をして、火砕流が走って淀江の湖を埋めてしまったために、潟湖がなくなってしまったとか、それから、湖山池は今、淡水化にしているんでしょ。結局、砂丘で水路を編成されてしまっているから。そうすると、今、京都大学の田中先生が提唱されている「森里海の連環」というね、森と里と海はつながっているという、これが日本の持っている一番美しい姿であると。実は私、来年韓国の麗水(ヨス)で行われる国際博覧会の日本のテーマを「森里海の連環」にしようと言っているんですけども、要するに森と里と海は川でつながっている。天神川は、昭和になってからまっすぐに大工事をした訳ですけども、それも記録に残っている。そういうことからいうと、独特の景観というのは、実は全国を探して、規模の大小はあるかもしれませんがね。浜名湖の方が圧倒的に大きいんじゃないとか、サロマ湖のような潟湖から見ると水がきれいではないとか色々な問題はあろうと思うんですけども、皆さんに表現していただいている「景観がいい」というのは、地球の持っている、日本列島の美しさの原形を持っているということなんじゃないかと思うんですね。そういう部分を含めつつ、やっぱりそうは言いながら、温泉がある、シジミがある、イベントがある、イベントがあるというのは皆が頑張っているということだと思わうんですけどね。頑張っていないとイベントなんかできないんだから。イベントがあるということは頑張っているということなんだけれども、何かもう一つ、水質が良くないとか、参加体験学習といいますか、要するに時間消費をするにも実際ウォーキングを楽しもうよとか、一周してみようよとか、あそこに行こうよ、ここに行こうよというソフトがなかなかないという感じに聞いていました。でも景観がいいというのは、先程言いましたように、森と里と海が川でつながっているとか、水系でつながっているものは本当に日本で少なくなっているんですよ。唯一残っているのは、この3. 1 1で津波にやられた

三陸海岸、ほとんどもうそのくらい、あと山陰海岸くらい、最近ではそれをジオパークというユネスコにも登録されるような運動になってきていますけれども、ただ、ジオパークは但馬の国と因幡の国で止まっちゃっているんですよね。東郷湖までできていない。鳥取砂丘までですよ、確か。そういうことが起きて、湯梨浜町の人は何で湯梨浜町が入っていないんだと怒る人もいない。実は、泊の海岸とか、青谷の海岸とか、みんなそういう意味でいうと縄文海進の跡が残っている訳です。そういうことを含めた形で、何かもう少し広く、深く、この風土というものの持っている価値みたいなものと、今、京都大学の田中先生が中心となってやっている「森里海の連環」みたいなそういうフィールドみたいなものを、ものすごいトレンドで起きてきていますから、そういう場所を日本の誇りにしていこうみたいなね。そういう意味でいうと、未来性もあるんだけど、でも何か水か汚いとか、暗い感じがするとか、あるものが活かされていないとか、そういうソフトとハードの関連みたいなものが皆さんの中で出てきたのかなという印象を持ちます。

この後、それぞれのペーパーをもう一回引き取っていただいて、今まで議論してきたプラスとマイナス、要するに強みと弱みですよ。強みと弱みの話の中で、例えば、強みをもっと応援していけばもっと良くなるポイントは何なんだろう。それから、マイナスと言っているけれども、もう少しプラス要因に応援して行って、加工して行って、工夫していけばマイナスがなくなっていくんじゃないか、プラスになっていくんじゃないかというポイントはこういうふうになるのか。これは、冒頭で言いましたけれども、マーケティングでいうとポジティブ・スパイラルをつくるということなんですね。強みをさらにプラス要因を加味することによって、競争優位性を高める。マイナスの部分は、どちらかという消費されて行って、プラスの要因に転化していく。そういうポイントというのは、湯梨浜町は持っているのか、持っていないのか。持っているとしたら、どういうことをすればできるのかということも議論していただけますか。ネガティブ・スパイラルの話というのは、本当は反面教師的にやると深い話になるんですが、今日は時間の関係でやりません。ポジティブ・スパイラルをつくるためには、どんな機会、どんなプラス要因を加えていけば、加えていくというのは人の力、人の熱意、或いはシステム、技術、アイデア、行動、そういうことですよ。それを付け加えていけば、マイナス要因は消すことができ、或いはプラスに転化できて、プラスはさらに強いものになっていく。東郷湖のポジティブ・スパイラルを議論していただきたいというお願いであります。

#### ポジティブ・スパイラル要因（機会）の検討

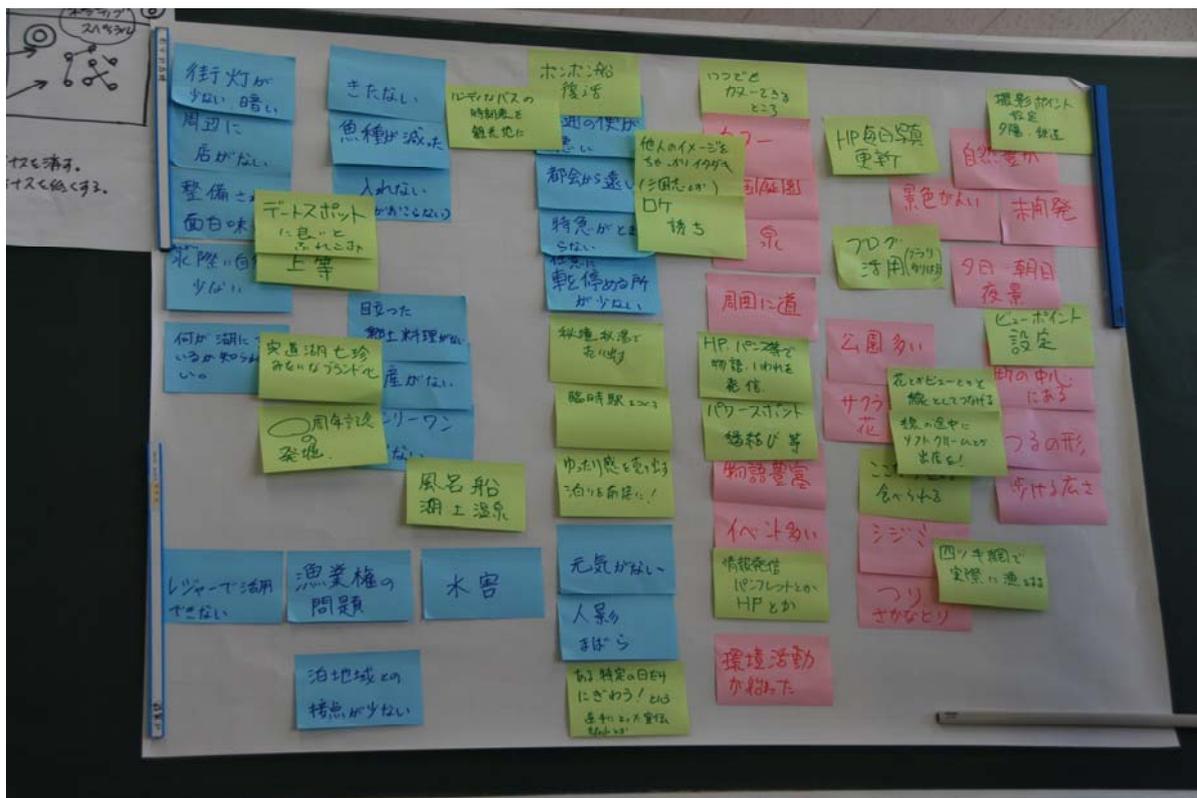


チームで議論したポジティブ・スパイラルの要因を発表

【主な意見】

- ・ 周辺を含めた施設のグレードアップ。
- ・ 施設の利用度に応じて利用料を無料にする。(ポイント制)
- ・ シジミの地元への流通を図る。地元で買える体制づくり。アンテナショップ。
- ・ インパクトのある名称。(ブランド化) 宍道湖七珍のようなブランド化。
- ・ ビューポイントの設定。撮影ポイントの設定。
- ・ 日の出、日の入りの時間を観光客にお知らせ。
- ・ 風景が絵のような大きな縁の設置。
- ・ 湖上温泉のPR。風呂船。
- ・ 温泉地としてのイメージづくり。
- ・ 秘境、秘湯で売り出す。
- ・ ポンポン船の復活。
- ・ ハンディな時刻表を作成。(アクセス改善)
- ・ 情報発信の充実。(HP、プログ、パンフレット等)
- ・ 郷土料理をつくる。
- ・ 連携してイベント、PR活動。

- ・サイクリングコースを整備。
- ・ウォーキングコースを整備。(距離別コース等)
- ・ウォーキングコースに消費カロリーを表示した標柱の設置。
- ・池、川、海を使った遠泳大会。
- ・魚釣り大会。
- ・文化資産の活用。神社めぐり。
- ・パワースポット、縁結び等の活用。
- ・有名人の活用。 など。



ポストイットを使いながら、東郷湖の強み、弱み、ポジティブ・スパイラルをマッピング

翌日の東郷湖・未来創造会議で、ワークショップ研修会で行った「東郷湖のSWOT分析」の結果を簡潔に紹介する。この「東郷湖のSWOT分析」で足りないポイントや将来に向けて欠かせないポイントを踏まえて、それぞれのワーキングチームで「東郷湖のSWOT分析」の振り返りを行う。